

休符から始まるメロディーの冒頭における 伴奏の和音諸形態について

—Noël GallonによるSolfège du Concours Léopold-Bellanの視唱課題の分析より—

Les différentes formes des accords dans les premières parties des mélodies de
commençant par les silences

—L'analyse des leçons de solfège dans les solfège du Concours Léopold-Bellan par Noël Gallon—

キーワード：ノエルギャロン、ソルフエージュ、視唱

柳田 憲一

I はじめに

フランスの作曲家で音楽教育者でもあったノエル・ギャロン (GALLON Noël 1891-1966) (以下、「ギャロン」と記す) は、「視唱」「聴音 (記譜)」「リズム打ち」などの多くのソルフエージュ教材を残した。それら教材は、フランスをはじめ、日本の音楽大学等の音楽教育の場でも広く使用されている。

ギャロンのソルフエージュ教材の特色の一つに、プログレッシヴ構成⁽¹⁾で作成されているという点があり、市販されているソルフエージュ教材のうち、とくに聴音課題集においては「プログレッシヴ」と表記されているものが多く⁽²⁾、課題集および個々の課題の構成においても、「音程」「音型」「拍子」「和声」「伴奏形」などの音楽構成要素に配慮しながら、多様な学習者に対応できる綿密な計画、構想のもと書かれているであろうということは、すでに明らかにした⁽³⁾⁽⁴⁾⁽⁵⁾。具体的には、初級、中級、上級等というようにいくつかの段階を設け、さらに個々の課題の中において細かな段階区分により作成されている。

フランスのソルフエージュ教育での一般的な視唱は、日本のように単旋律を無伴奏で歌うことは稀で、ほとんどがピアノ伴奏などの和声的根拠を提示した「伴奏つき視唱」として歌われている。ギャロンの視

唱課題集の多くは、聴音課題集に見られるような課題タイトルでの「プログレッシヴ」の記述はほとんどないが、聴音課題集同様に学習段階を考慮し作成されている⁽⁶⁾。

フランスのレオポール・ベラン音楽コンクール (Concours Léopold-Bellan)⁽⁷⁾ では、通常のピアノ部門、声楽部門などの楽器形態別のほか、ソルフエージュ部門が開催されている⁽⁸⁾。過去のソルフエージュ部門では、初級、中級、上級というように段階が設定されており、1945年から1949年の5年間は、ギャロンが課題出題者となり、その課題の楽譜が出版されている⁽⁹⁾。

そこで本研究は、ソルフエージュ教材研究の一環として、視唱教材のプログレッシヴ構成に基づく課題作成の一つの方法をギャロンの書いたレオポール・ベラン音楽コンクールの課題を和声的側面からメロディーと伴奏との関連を中心に分析し、とくにフレーズ開始時の休符から始まるメロディーの「入り」における、伴奏部の和音諸形態についてプログレッシヴ構成の観点から考察することとした。

なお、本研究の分析で使用する音度記号、調表示などの和声用語については「総合和声」の記述に従った⁽¹⁰⁾。

II レオポール・ベラン音楽コンクールの ソルフージュ部門について

1. 実施内容

ソルフージュ部門では、理論 (Théorie)、ピアノによる聴音記譜 (Dictée au piano)、初見視唱 (Solfège déchiffré) の3種を実施しなければならない⁽¹¹⁾ (表1)。

表1 2005年以降の課題内容 (Degré excellence)⁽¹²⁾

種	内容
Théorie	entière
Dictée au piano	au piano à une, deux parties et accord de 3 sons
Solfège déchiffré	toutes les clés

2. 視唱について

段階別に指定された音部記号によるピアノ伴奏つきメロディーを初見で歌う^{(13) (14)} (表2)。

表2 Solfège déchiffréの段階別指定音部記号

degré	préparatoire	élémentaire	moyen	supérieur	excellence
1945-49 ⁽¹⁵⁾		clé de sol	clé de sol et fa 4 ^e	clé de sol, fa 4 ^e , ut 1 ^{ère} , 3 ^e et 4 ^e	toutes les clés(7 clés)
7-2004 ⁽¹⁶⁾	clé de sol	clé de sol et fa 4 ^e	clé de sol, fa 4 ^e et ut 3 ^e	clé de sol, fa 4 ^e , ut 1 ^{ère} , 3 ^e et 4 ^e	toutes les clés(7 clés)
2005-					toutes les clés(7 clés)

III 1945-49のギャロン出題課題の構造 について

1. 拍子と速度

1945-49にギャロンが出題した4段階の課題における拍子と速度設定は次の通りである (表3)。

表3 各課題の速度と拍子

	élémentaire			moyen		
	小節数	速度	拍子	小節数	速度	拍子
1945	18	Andantino(♩=72)	4/4	19	Cantabile(♩=72)	3/4
1946	18	Sans lenteur(♩=88)	4/4	18	Cantabile(♩=72)	3/4
1947	16	Andante(♩=92)	4/4	20	Andante(♩=76)	3/4
1948	17	Lento(♩=92)	4/4	34	Andantino(♩=88)	2/4
1949	16	Moderato(♩=100)	4/4	31	Andante(♩=66)	2/4

	supérieur			excellence		
	小節数	速度	拍子	小節数	速度	拍子
1945	32	Andantino(♩=56)	2/4	43	Vif et léger(♩=132)	6/8
1946	25	Andantino(♩=72)	2/4	47	Tres vif(♩=132)	6/8-2/4-6/8-2/4-6/8
1947	20	Allergretto(♩=88)	2/4	52	Allergretto vivot(♩=116)	6/8-2/4-6/8
1948	19	Andante espressivo(♩=66)	4/4	25	Allergretto vivot(♩=52)	6/8
1949	36	Mouvement de Valse lento(♩=120)	3/4	34	Vivot(♩=120)	2/4

1) degré élémentaire (初級段階)

設定拍子は、すべて4/4拍子であり、16-18小節で構成され、それほど速くない速度設定となっている。

2) degré moyen (中級段階)

設定拍子は、3/4または2/4拍子であるが、3/4拍子は、18-20小節、2/4拍子は31および34小節と3/4拍子に比べて小節数が多くなっている。3/4拍子では、和音が1小節1和音から3和音に設定されているが、2/4拍子の場合、和音が1小節1和音と設定されており、和声進行を踏まえた結果としての音楽構成が課題規模の大きくなる要因の一つと考えられる。速度設定については、degré élémentaire同様にそれほど速くない。

3) degré supérieur (上級段階)

設定拍子は、2/4拍子を中心に小節数もさまざまであるが、4/4および3/4拍子では、速度に表情や舞曲的要素といった複合的表現を求めている。

4) degré excellence (優秀段階)

設定拍子は、6/8拍子を中心に曲中の3成系拍子から2成系拍子⁽¹⁷⁾への変化(6/8-2/4-6/8)があり、他の段階と比較して、より高度な読譜能力や音楽表現力が求められることとなる。また、速度設定も速い設定となっている。

2. 転調・転旋

すべての段階において、主調から他調を経過し主調へと復帰する構造で作成されている。degré élémentaireでは、主調の固有和音調への転調・転旋を主としているが、moyen, supérieur, excellenceへと段階が上位になるほど、主調から遠い調⁽¹⁸⁾への移行が目立ってくる(表4-1~4)。

メロディー作成において、メロディー構造が調進行や和声進行と密接に関連していることは、ギャロン自身の聴音課題作成方法と類似している^{(3) (4)}。ギャロンが作成する課題のメロディーの特徴の一つとして、初級レベルから主調に属さない変化記号(臨時記号)が多く出現することである。変化記号の出現箇所

表4-1 Degré élémentaireの主調と調経過

年	主調	調経過
1945	C dur	I III V II °M I
1946	G dur	I V I II I
1947	F dur	I V I IV I
1948	G dur	I VI IV II I
1949	C dur	I III VI III VI I

表4-2 Degré moyenの主調と調経過

年	主調	調経過
1945	B dur	I V II III I
1946	F dur	I V °III °I I
1947	D dur	I VI V °V °I °V I
1948	a moll	I °IV III VI °VII ↓°V I
1949	B dur	I III V °V V I VI V I

表4-3 Degré supérieurの主調と調経過

年	主調	調経過
1945	d moll	I III I °II ↓I °II °VII °VI °I V °II I °I I
1946	B dur	I III I IV II I
1947	Es dur	I V °III °VI I
1948	As dur	I II VI III °II V I VI IV II I
1949	G dur	I V I °VII °VI °VI V I °VII °I I

表4-4 Degré excellenceの主調と調経過

年	主調	調経過
1945	a moll	I III °VI °III °VI °II °VI °VII ↓°V I
1946	G dur	I VI V I II I II VI IV °VI I
1947	B dur	I III V I °III °VI I
1948	G dur	I °III °III V °VII II I °VI I
1949	Cdur	I V VI I °VI °VI I V °III °VI I

の多くは、転調・転旋による他調への移行箇所であり、その調の音階固有音としてのものであることは、全音階を基軸としたメロディー作成の結果と考えられる(譜例1)。

譜例1

つまり、全音階上の音構成でのメロディー作成であれば、初級から多くの調へと移行することや転調が複雑化されることは当然のことと考えられる。また、上級になるほど、全音階から逸脱した半音階構成音としての音階固有音でない転位による変化記号を伴った音の出現がみられる(譜例2)。

譜例2

IV メロディーとピアノ伴奏

1. 音部記号と音高

音部記号は、譜表のさまざまな位置に付けることにより楽譜上の絶対音高を指定するものであり、楽器や声などの音域に合わせて使い分けられているが、ソルフージュ課題としての譜表(通常は最大7譜表)を同一人物の声で再現することは不可能であるため、声種と譜表を照合し1オクターヴの移調により再現することとなる。一般的に、女声と変声期前の男声は、ヴァイオリン、ソプラノ、メゾ・ソプラノ、アルト譜表は同一音高で(譜例3)、バス、テノール、バリトン譜

表は1オクターヴ上に移調し歌う⁽¹⁹⁾(譜例4)。

①ヴァイオリン譜表

②ソプラノ譜表

③メゾ・ソプラノ譜表

④アルト譜表

■実音

譜例3

①バス譜表

②テノール譜表

③バリトン譜表

■実音

譜例4

2. 伴奏による手がかりの提示

メロディーに付随されるピアノ伴奏は、主として歌唱の音楽表現の根拠となる和声を示しており、伴奏形は、拍子、アゴギグ、デユナーミクおよび表

情などによりさまざまな形態となる。その中で、教材活用を目的とした課題は、学習者のレベル、目的等により学習者が課題の意図を的確に読み取り、表現できるよう作者は多くの配慮を伴った作成を必要とする。学習者(演奏者)に対しての表現補助の一つとして、メロディーの主要部分を伴奏で提示することやメロディーそのものを提示するほか、拍点(または大きな拍点)やメロディー開始に先行して開始音を提示するものがある。

1) 同一音高の提示

拍点でメロディーの音高と同一音高の音を伴奏で提示(譜例5)。

譜例5 *degré élémentaire 1945*

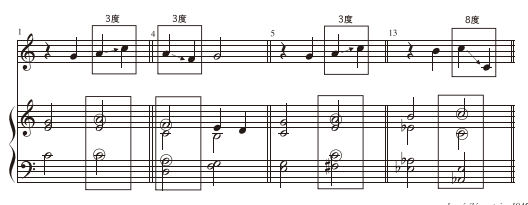
2) 異高同名音の提示

拍点でメロディーの音高と異なる同名音を伴奏で提示(譜例6)。

譜例6 *degré élémentaire 1945*

3) 定位音による跳躍

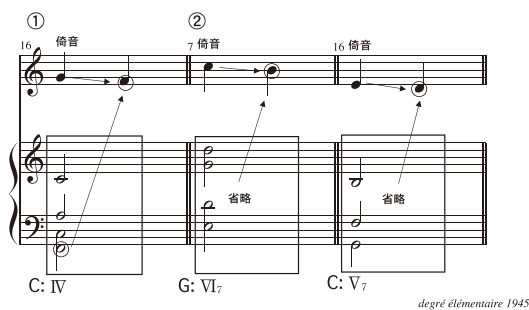
跳躍を含んだメロディーの場合は、跳躍音(先行音)と後続音は設定和音の定位音となる(譜例7)。



譜例 7

3. 倚音を伴うメロディーの和音配置

メロディーに倚音を含む場合、伴奏に解決音を下方の最も遠い位置（バス）に配置すること（譜例8①）や、倚音と解決音が同一音高で接触しないよう解決音を伴奏から削除し、歌唱時における音響的に良質な響きの維持とメロディーと伴奏の接触が原因の一つと考えられる「歌いにくくなること」を避ける配慮が見られる（譜例8②）。



譜例 8

V 休符から始まるメロディー下の和音配置

和音配置や伴奏形は、正確なメロディー歌唱に導くことや音楽表現のきっかけを与える重要な手がかりの一つとなる。とくに休符から始まるメロディーの冒頭部分は、フレーズ開始部として正確な歌唱が要求される。ギャロンは、同一課題および課題集のさまざまな段階で、休符を伴うメロディー下における冒頭部分の和音配置に変化を付け、難易度の振り分けをしている。

1. 分析のための定義

1) 分析対象とする休符から始まるメロディー

和音確定後の休符から始まるメロディーと伴奏部分を対象とし、休符時が他和音である場合は対象外とする（譜例9）。



譜例 9

2) メロディーの予備

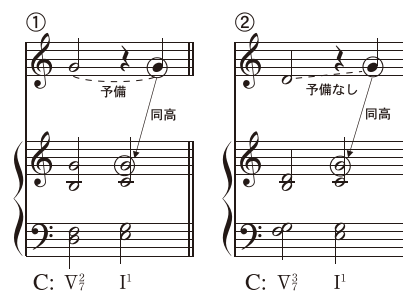
休符後のメロディー開始音が休符前の先行音と同一音高である場合、予備を持つメロディーとした（譜例10）。



譜例 10

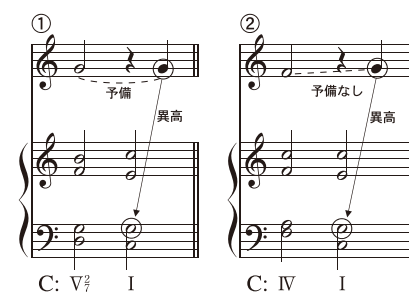
2. メロディーと和音配置

1) 定位音導入での和音内同高提示（譜例11）



譜例 11

2) 定位音導入での和音内異高提示（譜例12）



譜例 12

3) 定位音導入での和音内非提示 (和音内省略)

(1) 対象音が第7音となる

休符下が3和音でメロディー開始音は含まれていないが、第7音とすることで、7の和音となり、定位音となる(譜例13)。

① 予備 第7音
② 予備なし 第7音
C: IV V (V₇)
譜例 13

(2) 対象音が第9音となる

休符下が7の和音でメロディー開始音は含まれていないが、第9音とすることで、9の和音となり、定位音となる(譜例14)。

① 予備 第9音
② 予備なし 第9音
C: IV V₉ (V₉)
譜例 14

(3) 対象音が付加第6音となる

休符下が3和音でメロディー開始音は含まれていないが、第6音とすることで、付加6の和音となり、定位音となる(譜例15)。

① 予備 第6音
② 予備なし 第6音
C: V₉ IV (IV₊₆)
譜例 15

(4) 対象音が3和音の一部となる

休符下の和音内においてメロディー開始音が省略されているが、実際は定位音(根音、第3音、第5音)となっている(譜例16)。

① 予備
② 予備なし
C: V₇ I
譜例 16

4) 転位音導入での和音内同高提示 (譜例17)

① 同高
② 同高
C: I²
譜例 17

5) 転位音導入での和音内異高提示 (譜例18)

① 異高
C: I²
譜例 18

6) 転位音導入での和音内非提示 (譜例19)

① 非提示
② 非提示
C: I III C: II V₇ I C: I VI III
譜例 19

3. ギャロンによる出題課題の分析と考察

レオポール・バラン音楽コンクールのソルフェージュ部門での初見視唱において、ギャロンが1945年から1949年に出品した4段階計20題をV-2. の分類で分析した⁽²⁰⁾ (表5)。

初級段階では休符後のメロディー開始音が定位音であることが多く、その定位音を和音内において同高で配置するなど、学習者に対して多くの手がかりを示し、歌い易い課題構成となっている。上級になるほど、定位音でのメロディー開始音は、和音内において同高から異高配置、さらに非提示の形態となり、初級に比べて手がかりが少なくなっている。とくに上級では、転位音からのメロディー開始が出現し、段階別に変化を与えていることがわかる。また、初級と中級、上級と優秀では、数字上での違いは殆どみられないが、Ⅲ-1. およびⅢ-2. の結果を含めることで、明らかに4段階を異なる難易度に設定して作成していることがわかる。

VI おわりに

課題は、実施することの意義、学習して得られる能力向上への期待性、さらに音楽を通じた感情表現への手がかりなどを含めて作成されなければならないと痛感した。同一メロディー下の伴奏形、和音配置あるいは和声づけが変わることにより、学習者が受ける難易度に大きな影響を与える。このことを含め、ギャロンが当初から細部にわたり計画的な構想のもと作成に臨んでいたかは、分析結果から明らかにそのような計画性および配慮を強く感じる。今後も教育的意義をもち、学習効果を高めることのできる課題作成研究として、ギャロンを含め多くの作品の分析から手がかりを得たいと考えている。

表5 休符後のメロディー開始音と和音の関係

メロディーの提示種別 concours de							élémentaire					moyen					supérieur					excellence																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
							1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
							9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
							4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

(注)

- (1) 「音程」「拍子」「調」「臨時記号」「転調」「音楽的表現」などの諸観点を難易度に応じ学習段階に分けた段階別課題。
- (2) Gallon Noël (1949), 「200 Dictées Musicales progressives à une partie」 他4冊, editions jobert
- (3) 柳田憲一 (2005), 音楽的感覚育成に結びつく聴音課題のありかたについて——Noël Gallonのプログレッシヴ課題における構造分析より——, 日本音楽教育学会第36回大会口頭発表, 神戸大学
- (4) 柳田憲一 (2006), 初期学習としての2声聴音課題作成について——Noël Gallonのプログレッシヴ課題における構造分析より——, 日本音楽教育学会第37回大会口頭発表, 千葉大学
- (5) 柳田憲一 (2007), プログレッシヴ構成をもつ2声聴音課題における冒頭小節の構造について——Noël Gallonのプログレッシヴ課題集の構造分析より——, 日本音楽教育学会第38回大会口頭発表, 岐阜大学
- (6) 柳田憲一 (2008), プログレッシヴ構成をもつソルフエージュ課題について——Noël Gallonの「20のソルフエージュ課題集」における和声分析より——, 日本音楽教育学会第39回大会口頭発表, 国立音楽大学
- (7) Règlement du concours 2004によると, ”Concours Léopold-Bellan Musique et Art Dramatique” が正式名称であり, 2005年以降は”Concours International De Musique & D’Art Dramatique Léopold-Bellan”となっているが, 本研究では, 仏名, 和名ともに通称を用いている。
- (8) Règlement du concours Léopold-Bellan 2004-2010
- (9) Gallon Noël (1950), 「Solfège du Concours Léopold Bellan」, Jobert
- (10) 島岡譲 (執筆責任) 他 (1998), 「総合和声 実技・分析・原理」, 音楽之友社
- (11) 2004年は段階ごとにそれぞれの項目で内容が異なっている (Règlement du concours 2004)
- (12) 2005年以降のソルフエージュ部門は, degré excellenceのみ実施されている。
- (13) déchiffage accompagné au piano (ピアノ伴奏による初見) の記載がある (Règlement du concours 2004)
- (14) 参考楽譜 (2004は各段階ごと) が示されている (Règlement du concours 2004および2005)。2006年以降は参考楽譜の記述はない
- (15) 1945-49の段階別使用音部記号については, 出版楽譜 (前掲7) により分類した。
- (16) この時期には, degré préparatoire (準備段階) がある。
- (17) Bitsch Marcel, Holstein Jean-Paul, 「Aide Memoire Musical」, Durand, pp.22-24
- (18) 島岡譲, 前掲書, pp.466-485
- (19) 男声の場合, ヴァイオリン, ソプラノ, メゾ・ソプラノ, アルト譜表は1オクターヴ下に移調し, バス, テノール, バリトン譜表は同一音高で歌う。
- (20) 1948年のdegré élémentaireでは, 同段階の他の結果と異なる数字を示しているが, 1945-47および49年の伴奏形の主要形態が同時和音であること対して, ほとんどが分散形となっているためである。

参考文献

1. 島岡譲 (執筆責任) 他, 総合和声 実技・分析・原理, 音楽之友社, 1998
2. Bitsch Marcel, Holstein Jean-Paul, Aide Memoire Musical, Durand, 1972
3. Gallon Noël, 200 Dictée Musicales progressives à une partie, 1^{er} et 2^{ème}, Edition Jobert, 1949
4. Gallon Noël, 100 Dictée Musicales progressives à deux parties, Edition Jobert, 1924
5. Gallon Noël, 100 Dictée Musicales progressives à trois parties, Edition Jobert, 1942
6. Gallon Noël, 100 Dictée Musicales progressives

à quatre partie, Edition Jobert, 1948

7. Gallon Noël, 20 Leçons de solfège etudes
mélodiques et faciles en clés de Sol avec
accompagnement de piano, lemoine, 1950
8. Gallon Noël, solfège progressif, eschig, 1951
9. Gallon Noël, 25 Leçons de solfège, lemoine,
1950